

「高校生が創るまち」 意見交換会結果報告書



令和2年2月
相模原市中央区

1 事業名称：「高校生が創るまち」意見交換会

2 主 催：相模原市中央区役所区政策課

3 開催目的

- (1) 昨年度実施の意見交換会からの意見を計画※に反映したことの周知。
- (2) 区役所の事業に若い世代の想いを反映していく。
- (3) 若い世代に地域のまちづくり、地域活動を身近に感じてもらう。

※中央区基本計画：中央区が目指すべきまちづくりの方向性を示したもの。

(計画期間：令和2年4月から8年間)

4 開催日時

令和2年2月15日(土) 午後1時45分から午後4時30分

5 開催場所

けやき会館2階職員研修所 大研修室

6 参加者

高校生 18名(各校3名：内訳 1年生9名、2年生9名)

参加校：神奈川県立上溝高等学校

神奈川県立上溝南高等学校

神奈川県立相模田名高等学校

神奈川県立相模原高等学校

神奈川県立弥栄高等学校

麻布大学附属高等学校

傍聴者 2名 事務局 9名

7 当日の流れ

- (1) 全体説明
- (2) グループワーク(各班6名3班)
- (3) 発表
- (4) 講評
- (5) 感想発表

8 グループワークのテーマ

各班のテーマ

1班 交通安全：『交通事故ゼロ!』になるようにするには・・・

2班 防 災：『災害が来た!でも大丈夫』になるようにするには・・・

3班 多 様 性：『多様な魅力にあふれるまち』になるようにするには・・・

9 グループワークの流れ

事前ワーク

中央区基本計画に位置付けた目標のうちの3つについて、その実現の方向性を示すキーワードを示し、そのキーワードについての具体的な取組を事前に考えて“ふせん”に記入してもらうようにしました。

“ふせん”は、あらかじめ指定した2つの目標について、それぞれ5件程度ずつ記入するように依頼しました。

グループワーク（1回目）

目標とキーワードを記載した模造紙に“ふせん”を全部貼り、その中から各メンバーに気になったものを選んでもらい、記入したメンバーからの説明後、他のメンバーから出た追加の意見を“ふせん”に書いて貼っていきました。

グループワーク（2回目）

2回目はメンバーを入れ替えてグループワークを行いました。1回目の話し合いの内容を共有し、1回目と同じ様に“ふせん”を貼り、意見交換を行って、1回目の意見を掘り下げたり、新しい意見を追加していきました。

グループワーク（3回目）

1回目のメンバーに戻って、2回目の議論の話し合いの内容を共有し、課題を解決するための具体的な手段をまとめ、各班から発表しました。



10 グループワークでの発表内容と主な意見

1班【交通安全】

『交通事故ゼロ!』になるようにするには・・・。

○発表内容

～社会がこうなったらいいと思うこと～

■道路のガタつきがどうにかならないか。

- ・実際にケガをしたことがある。
- ・事故を減らすには一番重要な課題だと思う。

■遊びながら学べる場所をもうける。

- ・子どもたちが交通ルールを学べる場所が少ない、あっても知られていない。
- ・遊びながら交通ルールを学べる場所が必要。ただ、楽しいだけではなくて、事故の怖さを学べる必要がある。

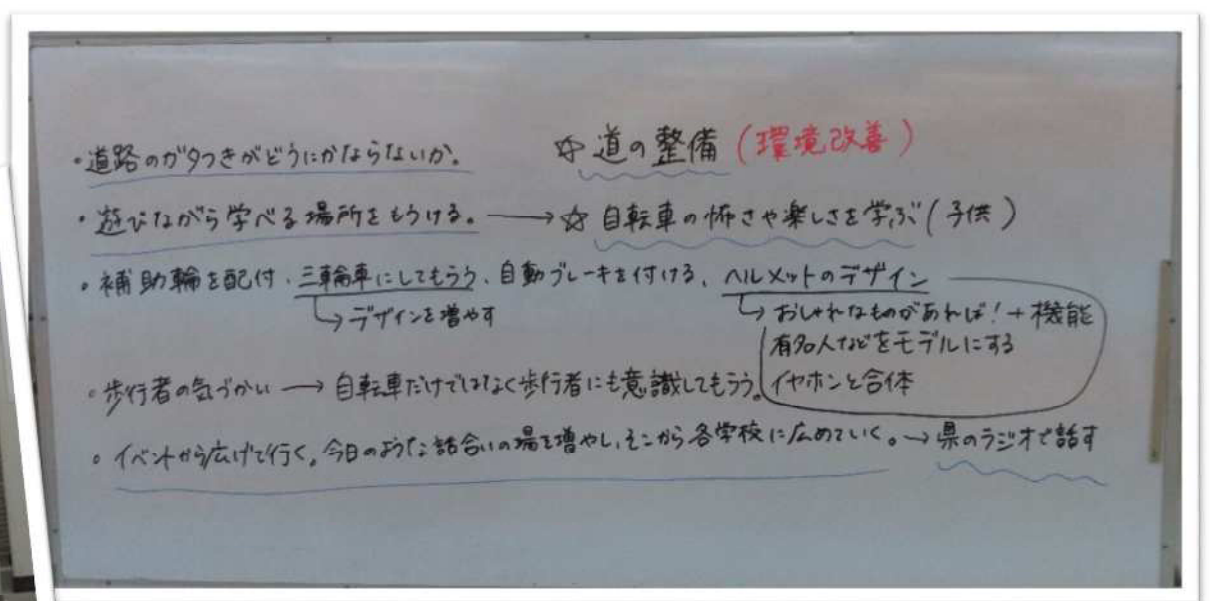
■補助輪を配布、三輪車にしてみよう。

- ・高齢者の方が、自分は大丈夫だと思っている、事故が多くなっている。そういった方に、自転車の補助輪を付けてもらったり、三輪車にしてみたりしてはどうか。

～自分たちができると思うこと～

■イベントから広げていく

- ・自分から参加したいと思っている人が集まっている、こういった意見交換の場での体験を学校で発表して広めていってはどうか。自分たちの身近な同級生の話なら興味を持って聞いてくれるのではないか。
- ・交通事故をゼロにするために自分たちができることとして、活動に意欲的な人を増やしていくことが大切だと考えた。



○主な意見 ※「⇒」は追加の意見

キーワード

「意識」、「啓発」、「運転スキル」、「技術革新」、「環境改善」、「新たな取組」

意識

- ・事故の事例を教える。
 - ・高齢者の方に免許返納を促す。
 - ・自転車運転時のイヤホンの危険性を伝える。
 - ・「早く」ではなく「安全に」を第一に優先して移動する。
 - ・「歩道は歩行者優先」を再認識させる。
 - ・歩行者も車道寄りには注意を払う。
- ⇒歩行者は周りを見る。⇒お互いに気を遣う。

啓発

- ・鹿沼公園の交通公園を活用し、子どもたちに交通ルールを学んでもらう。
⇒鹿沼公園を交通マナーを学べる場所に！
⇒子どもの頃は恐怖心でマナーの大切さを植えつけられる。
⇒楽しそうだなと思わせる。
⇒自転車の怖さも体験して知る。
- ・高齢者が自転車でふらついた運転を見かけるので安全性を高めるため補助輪を付けるよう呼びかける。
⇒補助輪を無償で配布する。補助輪を自転車とセットで販売する。
⇒補助輪を子どもだけでなくお年寄りなどにも活用してもらおう。
- ・交通事故の怖さをスタントマンに再現してもらおうような交通安全教室を開く
⇒スタントマンに演じてもらったり、映像を見てもらう。
⇒自分達と同じ立場の人の実演による体験。
- ・ヘルメットの着用を呼びかけ、保険の説明会などを行う。
- ・目に見えるところにポスターなど交通安全に関わるものを設置する。
- ・各学校でヘルメット着用の呼びかけをする。
- ・自転車のマナーについて詳しく知らない人が多いと思うので、学校で説明会などを行う。
- ・こういう意見交換会の場で話し合ったことを周りのみんなに広めていく。
- ・自分の体験をラジオなどで話して広めていく。



運転スキル

- 小学校の自転車教室の頻度を上げる。
- 止まれの標識をきちんと見て左右を確認する。
- イベントで運転シュミレーターなどの体験を行い、技術を向上してもらう。

技術革新

- 法定速度以上が出せないようにする。
- 高齢者はアクセルとブレーキを踏み間違えることが多くあるので、自動ブレーキなどを付ける。

環境改善

- 街灯が少ない、暗い、危険！
⇒歩行者、自転車からは見えづらい。
⇒灯りを増やす。明度を上げる。
⇒蛍光塗料を白線に混ぜて道を光らせて、夜でも見えるようにする。
⇒街灯は高い位置にあるが、上ばかりでなく、下も照らす工夫をする。
- 国道 16 号にあるような自転車専用道路を増やす。
⇒自転車専用道路に歩行者を歩かせない。
- 道路がボロボロなので直して欲しい。あと狭い。道路がきれいになれば良い。
- 車道と歩道の間の段差をなくして、スロープのものを増やしていく。
- 自転車専用道路の整備や、その道路への路駐禁止を徹底。
- 危険な道などを皆で教え合える場所を作る。
- 電柱や信号の柱など目に入りやすい所に交通マナーが書かれたポスターのようなものを貼る。
- 歩道と自転車の道を間違える人が多いので色分けする。
- 高齢者はだんだん視力が衰えてくるから標識を大きくして見やすくする。
- 時間による自転車の一方通行帯を拡大する。



新たな仕組み

- 自転車の取り締まりを強化する。
⇒自転車のルールをはっきり決める。
- 高齢者になるべく運転しないように、何歳以上は運転できないなどにする。
⇒コミュニティバスなどの代替手段の確保が必要。
⇒バスの本数を増やす事が必要。
⇒公共交通機関の整備が必要。
- ポスター等だけでなく講習で伝えることでより多くの人の目に止める。
• 事故を起こした人は必ず自転車の安全講習に参加するような制度を作る。

その他

- 原付などの免許をもっと難しくする。
- 自転車の点検を増やす。
- 学校や企業で定期的に自転車の講習会を開く。
⇒実際の道路を想定した実演を行う。
⇒学校で点検を実施する。



2班【防 災】

『災害が来た！でも大丈夫』になるようにするには・・・。

○発表内容

■ハザードマップと回覧板

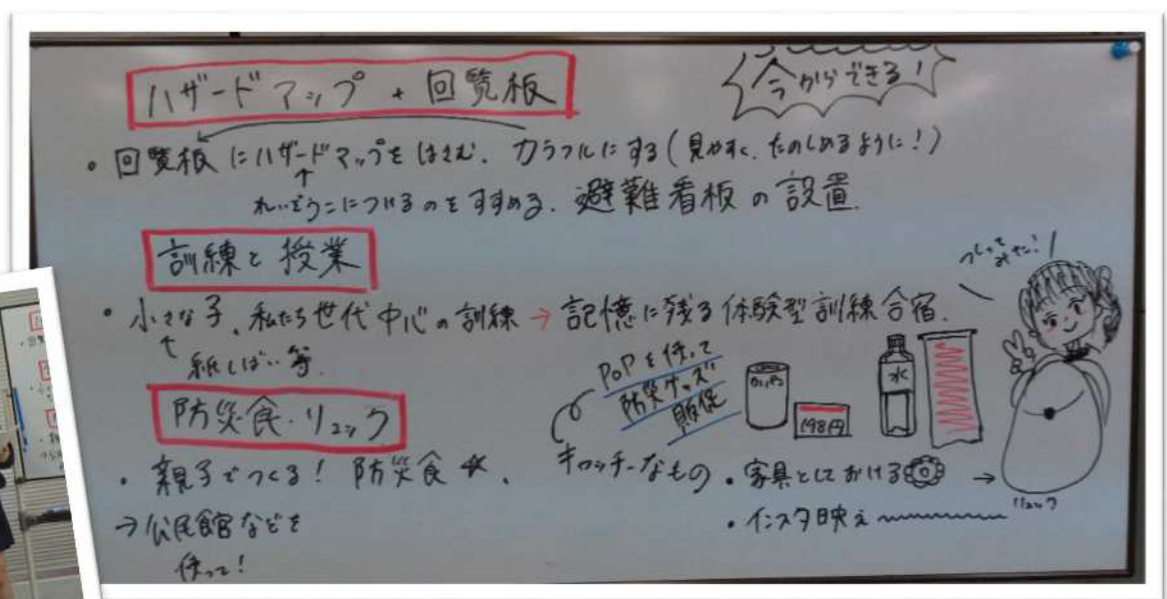
- 見やすく楽しめるようにすれば、親だけで回すのではなく子どもも見たくなるのでは。4コマ漫画や文字のフォントを丸くするなどの工夫をしてはどうか。
- ハザードマップを実際に見たことがある人は少ないので、みんなが見れるようにしたほうが良い。

■訓練と授業

- まずは対象を絞って、若い世代中心の訓練にしてはどうか。
- 小さい子どもには紙芝居などを使って楽しく学んでもらってはどうか。楽しければ親に話をしたくなると思う。
- 記憶に残る体験型の訓練をすると今後に生かせるのではないか。

■防災食とリュック

- 公民館で行われている、親子での料理教室を防災食に置き換えてやってみると防災に関する知識が増えるのではないか。
- 防災グッズをかわいくキャッチーなものにしてはどうか。
- スーパーのポップなどで備蓄品の販売促進をしてはどうか。



○主な意見 ※「⇒」は追加の意見

キーワード

「訓練」、「物資の備蓄」、「コミュニケーション」、「知識」、「意識」、「助け合い」

訓練

- ・訓練の積み重ねで災害発生時に頼れるチームワークを作る。
- ・地域の防災訓練への参加を呼び掛ける。
- ・防災訓練の回数が増えないと忘れてしまうので増やして欲しい。
- ・訓練の参加率を上げるため子どもも大人も楽しめる企画にする。
- ・地域の防災訓練等を定期的に行い、その際に公園にある防災倉庫についての説明をする。
- ・学校で行われる訓練をふざけながらではなく、いつ起きるかわからないことだと想像しながら行う。
- ・ひばり放送を聞く習慣をつける。
- ・短期間での疑似避難所生活を体験する。

⇒訓練で泊まってみる。

⇒崩れた家から抜け出す脱出ゲーム。

⇒過酷さを味わう。

物資の準備

- ・年始や年度初めなどに非常物資の販売を大々的に宣伝する。
- ・首都直下型地震に備えて備蓄倉庫の食料を増やしておく。
- ・防災グッズをかわいいものにする。
- ・家具としておける防災グッズ。
- ・非常用物資をリスト化し、回覧板でまとめて必要なものの認識を各家庭に持ってもらう。
- ・災害が来た時すぐに逃げられるように、非常用物資をわかりやすい所に置く。
- ・賞味期限をたまに確認しておく。
- ・防災リュックづくりのワークショップを年に2回程度開催する。
- ・スーパーの売り場にポップなどで備蓄を促す。

⇒賞味期限の長い商品に「防災に良い！」等の記述をする。

⇒ポップを見ると買いたくなったり確認したくなると思う。

- ・備蓄しておけるものを安く売ったり、高齢者への送料をタダにする。

⇒防災食の賞味期限が分かる仕組みを作る。

- ・非常用物資を安く簡単に手に入れられるようにする。

⇒一つのもので多くのことができるもの。

コミュニケーション

- ・災害情報発信体制のSNSを増やす。
- ・大人から子どもまで楽しめる自治会イベントを開催する。
- ・近所の人とあいさつをするなどして、顔を知ってもらい、顔を覚える。
- ・地域の人たちみんなでコミュニケーションがとれる取組イベントを行う。
- ・児童館などで劇や紙芝居を使って子どもたちに伝える。

⇒子どもから親へ伝わる。

⇒幼稚園、保育園等でやれば、小さいころに覚えたことは忘れないことが多いらしい。

⇒身近な話で作れるといい

知 識

- 授業でもっと防災を学べるようにする。
⇒授業で防災についてもっと深い内容を触れる。
⇒小中学校等で、防災に関する資格の勉強をさせるのもありかも。
- 公民館を使った防災食料理教室を自治体や市・区主催で行う。
⇒カンパン以外も食べたい。料理できるように！
⇒災害中でもおいしくご飯を食べたい！
- 認識度が低いので、ハザードマップによる意識改革をする。
⇒ハザードマップがどこにあるかわからないから、わかるところに置く
⇒冷蔵庫に貼ることで見やすく
⇒回覧板に挟んで一家一枚。
⇒ハザードマップを身近なものにしたい！
⇒ネットが使えないときのためにハザードマップを定期的に配布する。
⇒ネットに頼らずマップを家に一枚ある状態にする。
⇒会社や学校でも配る。
⇒地図なら小さい子どももわかるのでは？
- 防災用具の使い方をしておく。
- ハザードマップなどで避難場所を知っておく。
- 災害時に何が必要なのか確認しておく。
- 身の周りの災害時に危険な場所となりそうなところを事前に把握しておく。
- 子ども向け番組や漫画、絵本で小さいころから知識を身につけさせる。
- 災害が来た時、1人の場合どこに避難するのか考えておく。
- 美味しく防災食を食べられるイベントを行う。
- この地域はここに逃げるんだということが分かるポスターを作る。

意 識

- 空いている広告板などに「いつ起こるかわからない災害に危機感を持って！」
みたいな事を書く。



助け合い

- ・隣近所隣人との関係を深め、災害時の情報共有だけでなく身内との連絡経路として互いの電話番号等を共有しておく。
⇒防災のことを学校で取り組む。⇒外国人の人が混乱しないように多言語を加える。
- ・黄色いハンカチを高齢者や一人暮らしの人に配る。
⇒逃げたかどうかをわかりやすくするように。
- ・実際に地震があった時などに備えて、小中学校に子どもが在籍している場合、近所にお迎えを頼む。
- ・建設会社、不動産に市役所等に引っ越してくる人へ自治会加入を勧めてもらう。
- ・災害アナウンスに英語を加える。
- ・近所の人とブロック塀や山、川など近所の危険箇所を把握し合う。
- ・他の人に指示を出せるほどの知識を身につける。
- ・地域でまとまって取組をする。
- ・隣近所との交流を深められるようなイベントを行う。
- ・近所の人にお年寄りの方がいたら一緒に手伝いながら非難する。

その他

- ・避難勧告が出る前に行動したり、早め早めの行動を心掛ける。
- ・任意ではなく強制的に年1回程度は防災訓練を行う。
- ・ビル等の窓の割れ防止対策をする。
- ・回覧板を有効活用する。

⇒フォントと色にこだわって小さい子どもでも見やすいように！あと4コマ漫画

⇒回覧板にもっと有益な情報を見やすく

⇒子どもでも見やすく楽しく

⇒お得な情報を載せる

⇒カラフルにする

⇒まず回覧板を回すべき



3班【多様性】

『多様な魅力にあふれるまち』になるようにするには・・・。

○発表内容

■にぎわい

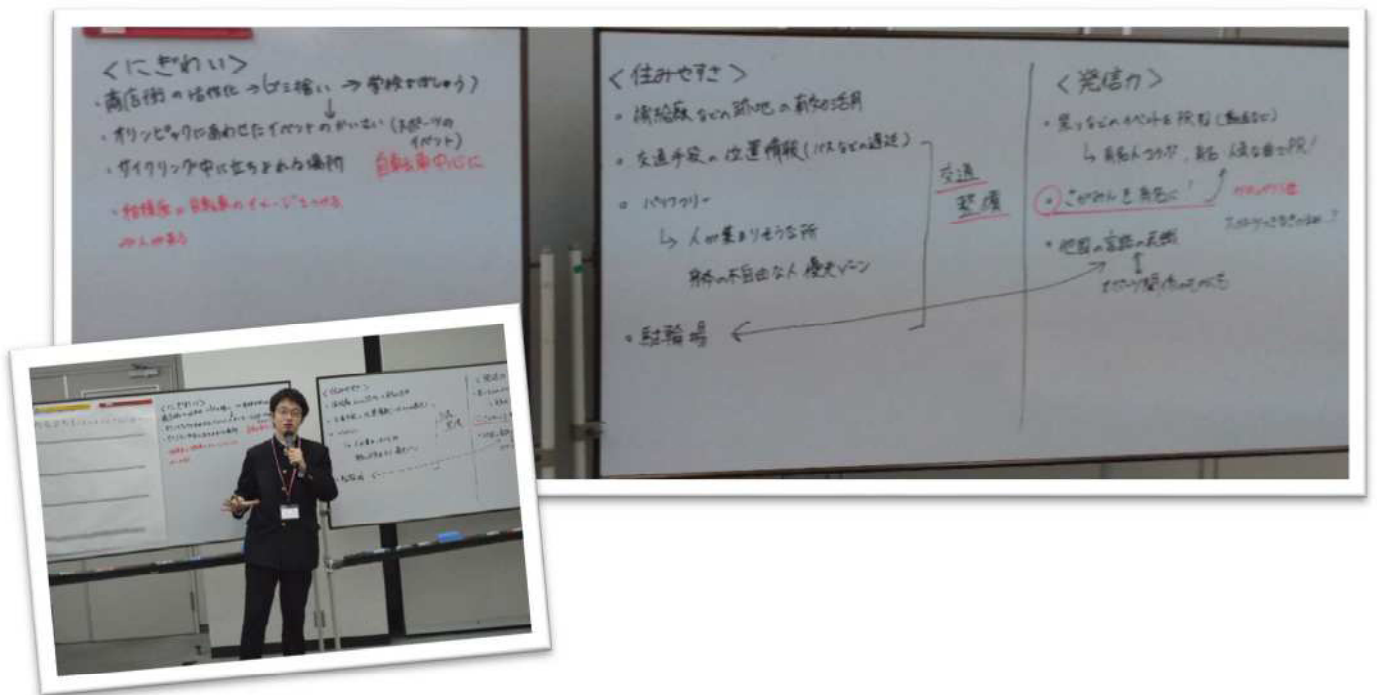
- ・オリンピックの自転車ロードレースのコースになっていることを生かして、相模原といえば自転車というようなイベントを企画する。
- ・イベントに若い世代からのボランティアを募るとまちの賑わいにつながるのではないか。
- ・自転車をきっかけとして、道路の整備やバリアフリーを進めることに繋げていけるのではないか。

■住みやすさ

- ・補給廠の跡地の有効活用として複合型のスタジアムを整備することで、いろいろな人が集まり、多様性にも合致するのではないか。

■発信力

- ・相模原市のゆるキャラの「さがみん」の活用策として、自転車に乗ったり、スポーツをやってみたりすることでPRになるのではないか。
- ・駐輪場などの案内に外国語表記をすることで、外国人にも優しいまちにしているとはどうか。



○主な意見 ※「⇒」は追加の意見

キーワード

「にぎわい」、「認め合い」、「住みやすさ」、「まちへの誇り」、「中央区の資源」、「発信力」

にぎわい

- ・人が自然と集まるような雰囲気のリゾートスペースを作る。
- ・駅前広場でコンサートやライブなどを行う。
- ・相模原駅を代表するショッピングモールをつくる。
- ・駅近くの商店街を歩行者天国にする。
- ・散歩していた人が集まり、話す事が出来るように公園にイスとかを置いて、休憩スペースを作る。
- ・リニアを中心にまち作りを考える。
- ・商店街をキレイにする。
- ・地産地消をアピールする。
- ・上溝夏祭りをはじめとする歴史のある祭りをアピールする。
- ・お祭りをひらいたり、まちおこしをする。
- ・補給廠一部返還地に複合型スタジアムを建設し、ホームタウンチームの試合に多くの人を訪れてもらうようにする。ショッピングモールなどの複合機能で試合のない日にもにぎわうようにする。
- ・学校から祭り等の手伝いのボランティアを募集する。
- ・祭りの時、ゴミを無くすためにボランティアでゴミを集めてもらう。
- ・朝市の実施、イベントの実施、自然を生かしたまちづくり。
- ・衰退してしまった商店街のシャッターに絵を描いてにぎやかにする。
⇒弥栄高校美術科や地元の高校生に描いてもらう。
- ・西門にある商店街でイベントを開く。
⇒商店街での食べ放題。
- ・イベントの参加が中高生は少ないらしいので中高生を惹く何かをする。
⇒家族ぐるみで参加する。

認め合い

- ・性別、年齢、文化、言語の異なりを認め合った、平等な祭り（イベント）を開催する。
 - ・日本人だけでなく、他の国の人も楽しめるイベント作りを行う。
 - ・個性を認めるような行事を作る。
 - ・外国人の人が飲食店に来た時メニューが分からないと困るから、多言語で書く。
 - ・掲示板などのお知らせをするものに他の言語を加える。
 - ・同性の結婚をありにする。
 - ・留学生を小中学校で受け入れて外国人との交流を深め、その地の文化、言語を学ぶ。
 - ・市で留学制度を作る。
- ⇒実際にいくことで違いを認められる。

住みやすさ

- ・高齢者のために移動販売を行う。
 - ・区内で放置されているような土地をもっと有効活用する。
 - ・バス停にいてもバスの位置情報が分かるアプリ等を作ってほしい。
 - ・小田急線を走らせてほしい。
 - ・電車やバスの振り替え輸送の手段を増やす。
 - ・道の幅を広げ、道標に英語を取り入れる。
 - ・行きたいと思わせる、森を活かせるイベントを作る。
 - ・どのくらいの年代が遊ぶのに適するかをまとめて、公園の役割を明確にする。
 - ・赤ちゃんが公共の乗り物とかで泣いても嫌な目で見るとはなく、暖かい目で見ると。
 - ・相模線の本数を増やす。
 - ・自転車専用道路をもっと作ってほしい。
 - ・都会と田舎のハイブリッド。
 - ・まちのバリアフリーを増やす。
 - ・バスの路線分かりやすくしてください。
 - ・税金等から大学等に行くための金をもっと出す。
 - ・ベビーカーの負担を減らすために段差やデコボコをなくしてなるべく道を平らにする。
 - ・空き家を貸してアトリエにする。
 - ・自治会加入=面倒のイメージを払拭する。
- ⇒加入によるメリット、仕事を明示すべき。

まちへの誇り

- ・中高生を対象としたボランティア団体を作る。
- ・県境を利用してイベントを行う（例えば綱引き）。
- ・ゴミを減らすために路上喫煙をなくす。そのために注意喚起の看板を作る。
- ・地元のグルメを広めるグルメイベントを開催する。
- ・全国的に有名な青山学院大学の駅伝部を活かして何かPRや、「相模原市中央区」の代名詞になればと思う。
- ・ラーメン屋さんが多いので、それぞれの店の売りを食べ比べてもらう。
- ・イベントなどを通して、ホームタウンチームのスタジアムに訪れてもらう。
- ・地元のホームタウンチームを観戦することで、地元へ愛着を持ってもらう。



中央区の資源

- ・大学生の留学生や外国人労働者の受け入れ、サポート体制を強化する。
 - ・祭りを増やすためにも、祭りを開催できるような公園の掃除や手入れを行う。
- ⇒ボランティア活動など。

- ・JAXAが気になるので、イベントほしい。
- ⇒公開日が少ないので、イベントなどを増やしてほしい。
⇒星とか学べるようなプラネタリウムのイベントがほしい

- ・中央区に多くある大学の学園祭のお知らせなどをもっと広く配ってもらおう。
- ⇒駅とかみんなが見るところで配ってほしい。

発信力

- ・フィルムコミッションを活用して、映画撮影などで知名度を向上させる。
 - ・JAXA、自然などを巡るPVを作り、SNSなどで公開する。
 - ・魅力PR動画をもっとみんなに知ってもらおう。
 - ・各学校に祭りやイベントがある時にチラシ等を貼る。
 - ・人が多く通る駅に学校のパンフレットをおく。
 - ・相模原にゆかりのある有名人などとコラボしたPRを行う。
 - ・聖地巡礼のスポットを知ってもらおう。
 - ・SNSを利用してイベントの告知をする。
 - ・今あるイベントをSNSで広める。
 - ・親向けの発信力を高める。
 - ・会議等地区を超えた集まりを行う。
 - ・行事、イベントの情報を複数の言語で記した掲示板を増やす
 - ・芸能人や有名人、ユーチューバーなどとのコラボ動画を作る
 - ・区単位や学校ごとに交流の場を増やす。
- ⇒話したいことを各団体に報告する。



1.1 講評要旨（中央区長）

今日は初めて集まったメンバーで、みなさん発言し、上手にまとめていただいて驚いています。中身の濃い、良い議論をして頂いたと思っています。

1班では歩道の段差が危ない、外灯は低いほうが安全ではないかという議論がされていました。高齢者の事故についても一概に運転しなければいいというわけではないという深い議論をして頂きました。また、社会で対応すること、自分たちでできることに分けて整理して頂き、参考になったと考えています。

2班では身近なところからの意見として、回覧板を親世代だけでなく若い世代にも手に取ってもらえる工夫が必要ではないかというご提案を頂きました。備蓄の必要性についても、備蓄品の販売促進策として、スーパーのポップで宣伝したほうが良いというアイデアも頂きました。ハザードマップの議論について、インターネットが使えなくなった状況を前提にしている、必要な視点だと感じました。また、体験型の防災訓練合宿というご提案も面白いと思いました。

3班では住みやすさと認め合いは関連するのではないか、近所の認め合いが住みやすさになるという意見がありました。また、お祭りも外国人がもっと楽しめる工夫が必要ではないかのご意見もありました。発表の中でもありました、自転車を軸としたまちの魅力発信を考えていくのもひとつの方策だと考えております。

全体的に、身近な疑問から施策につながるような提案まで頂いたと感じております。皆さんご自身の体験に基づいた意見も出ていて、上滑りでない議論をして頂いたと感じております。



1 2 参加者の主な感想

- 自分の体験に共感してくれて、みんな同じことを考えているんだと感じたり、同年代の人と話すことができて楽しかった。
- いろいろな人の意見を聞くことができ、みんな真剣に考えているんだと感じた。
- 自分では気づかなかった部分の意見とか、自分で見ている観点とは違う意見が出ていたり、自分の身になったこともあったので、いろいろなところで拡散したいと思う。
- 班の中で出た「このような場所で話し合ったことを広めていく」というのを学校へ戻って実践していきたい。
- 自分の出した意見に賛同してくれたことが嬉しかった。
- 高校生でもこういったイベントに参加できることが嬉しかった。
- 話し合っていて大事な気づきもあり、知らなかったことも知ることができた。
- 高校生でもできることをこれから発信していきたいと思った。
- ここで出た意見を形だけに終わらせないようにお願いします。

